

やすながた  
国史跡 安永田遺跡

鳥栖市教育委員会



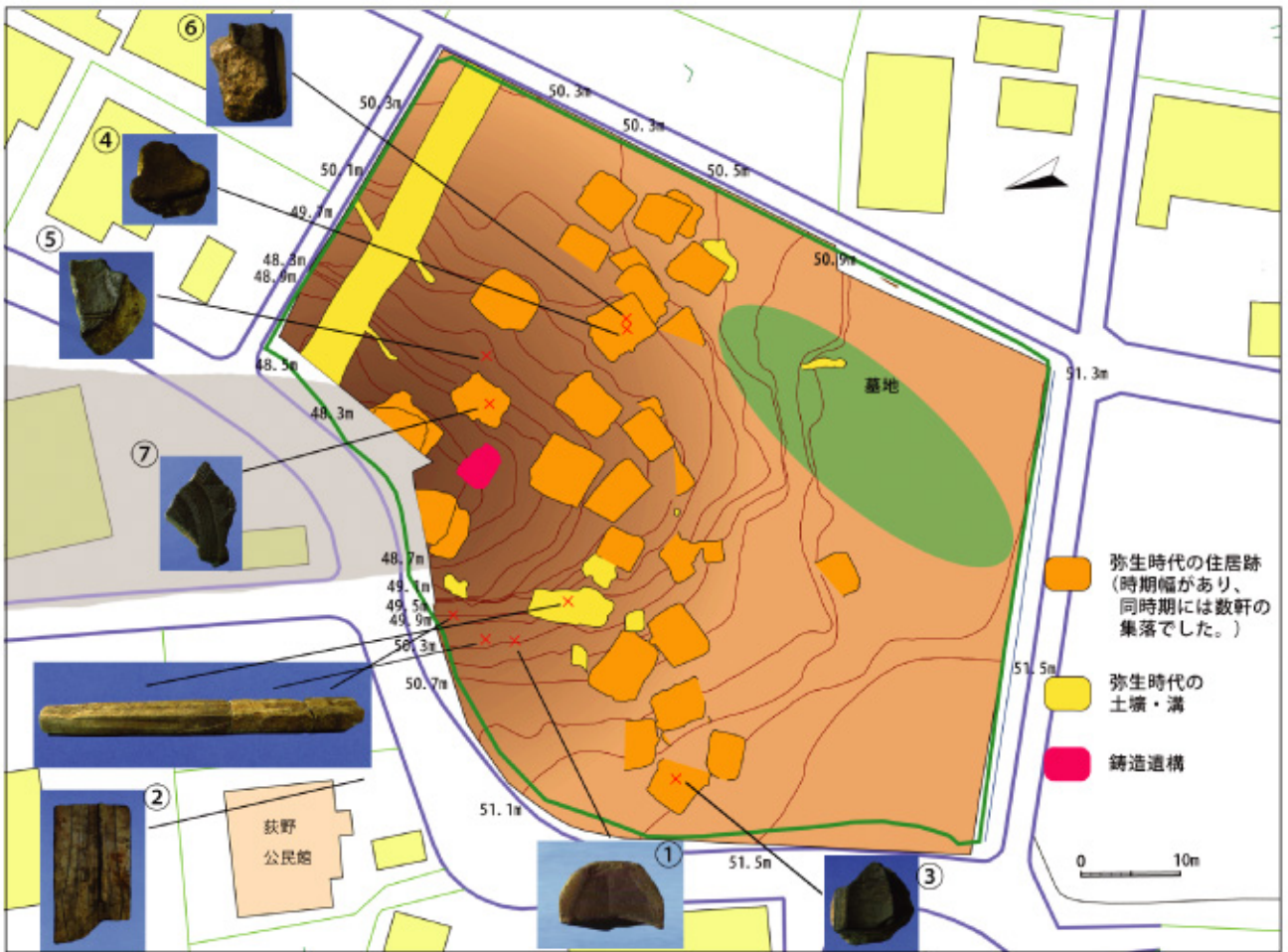
安永田史跡公園（铸造遺構）

鳥栖市<sup>ゆびまち</sup>柚比町字安永田<sup>やすながた</sup>から神辺町<sup>こうのえまち</sup>字萩野にかけての一带は、大正2年（1927）の耕地整理の際に<sup>かめかんぼ</sup>甕棺墓から<sup>どうか</sup>銅戈が出土するなど、弥生時代の墓地として知られていました。昭和54年（1979）、現在の安永田史跡公園から<sup>どうたく</sup>銅鐸の<sup>いがた</sup>鋳型が出土し、それまで九州地方にはないとされていた銅鐸が作られていたことが明らかになり大きな話題となりました。さらに昭和55、56年に調査が行われると、弥生時代中期前半（約2,100年前）の甕棺墓地だけではなく、中期後半～末（約2,000年前）に営まれた集落跡が見つかりました。

この集落は、北方向から入る狭く深い谷の谷頭を囲むように住居が配置され、北東側を幅約5mの溝で区画されていました。また、<sup>どうほこ</sup>銅鐸や銅矛の鋳型の出土や炭化物が散在した住居跡などが確認されたことから、青銅器を制作していた特殊な集落（<sup>ちゅうどう</sup>青銅器<sup>ちゅうどう</sup>鋳造工房）であったことがわかりました。

そのため、調査が行われた4,400㎡が史跡に指定され、出土した銅鐸鋳型片5点、銅矛鋳型片5点（うち1点は昭和58年の調査で出土）の計10点の鋳型片が、一括して国重要文化財に指定されました。

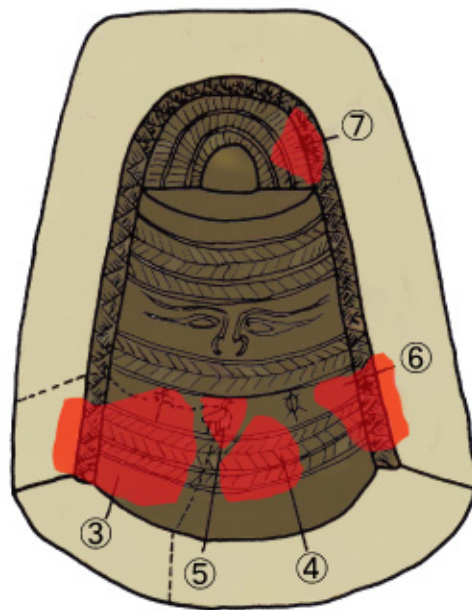
現在、この地点は史跡公園として整備されています。



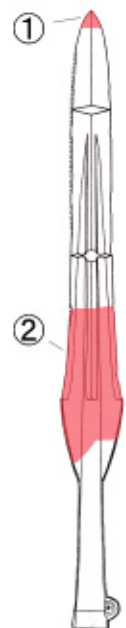
安永田遺跡遺構図及び鑄型出土地点



復元した銅鐃



銅鐃鑄型出土地点



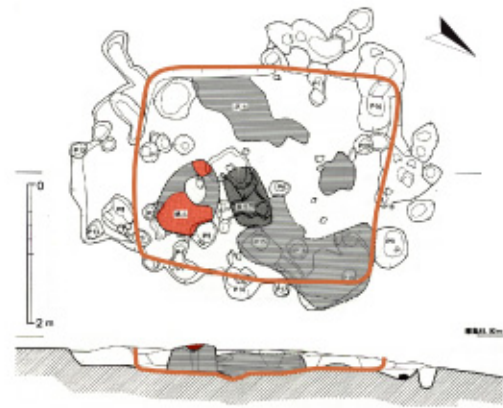
銅矛鑄型出土地点

(番号は、上の鑄型出土地点)



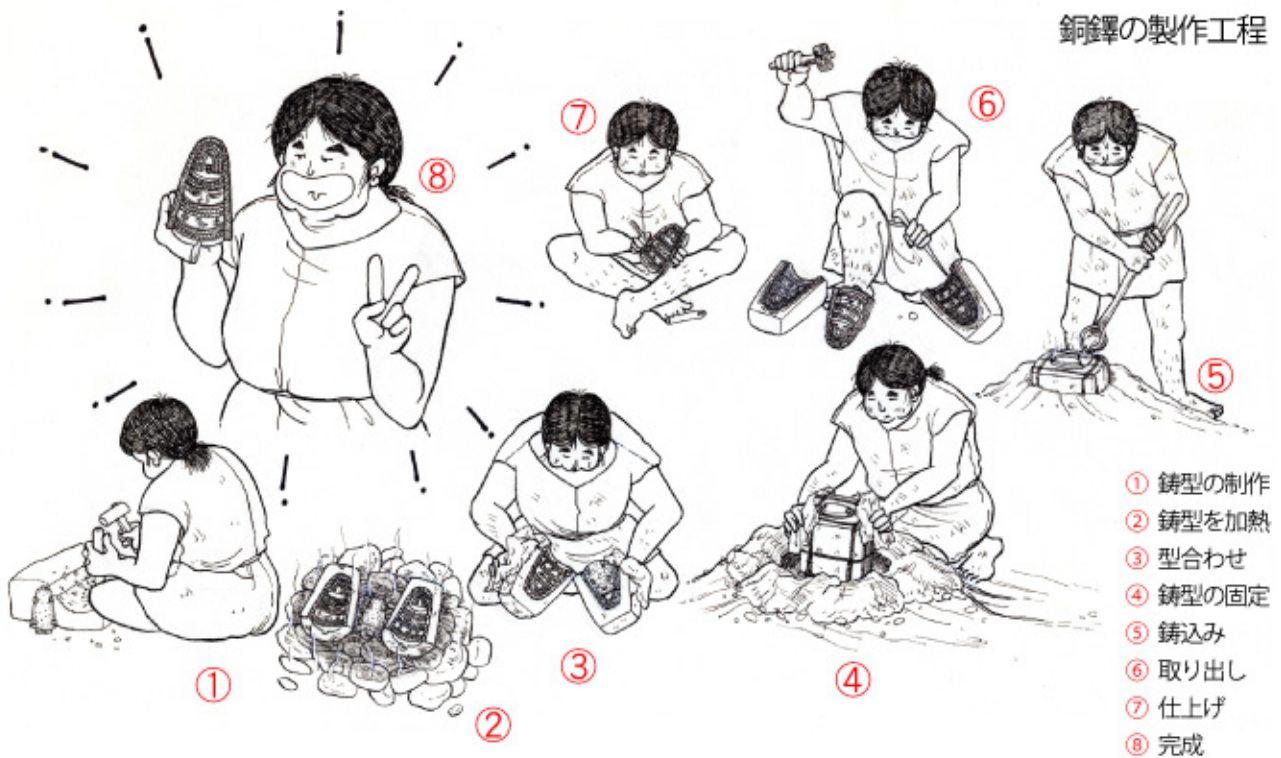


発掘調査時の鑄造遺構（昭和55年）



鑄造遺構の復元線

### 銅鐸の製作工程



- ① 鑄型の制作
- ② 鑄型を加熱
- ③ 型合わせ
- ④ 鑄型の固定
- ⑤ 鑄込み
- ⑥ 取り出し
- ⑦ 仕上げ
- ⑧ 完成

### 鑄造遺構

北から入り込んだ谷奥の中央に位置しており、北風がもっとも吹き込む場所が選ばれています。施設は4.0m×3.0m程のやや不整な長方形の穴で、床面には焼土や灰土が全面に見られました。円筒状のものが原料を溶かす炉（ようかいろ溶解炉）です。この中に青銅器の原料（銅・錫・鉛）をいれた土器（るつぼ坩堝）を置き、温度を上げるために土製の送風管（ふいご鞴の羽口）で酸素を送りながら木炭を燃やして原料を溶かしました。

銅鐸や銅矛の原料の溶解には、950～1000℃の高温を2時間は保つ必要があります。原料が完全に溶けると、とりべ取鍋をつかって手前の空間に据え付けた石製の鑄型に素早く流し込んで青銅器を鑄造しました。

現在、史跡は埋め戻して保存しています。遺構はその上に復元しています。

### ご案内

◎安永田史跡公園への行き方  
 JR鳥栖駅から車で約20分  
 JR弥生が丘駅から車で約5分



鳥栖市公式携帯サイト  
 「文化財にふれる」

市内の文化財公開日や見学会、イベントなどの情報を発信しています。